

昭和43年7月1日第3種郵便物認可
平成17年3月5日発行(毎月5日1回発行)
第45巻3月号(通巻548号)

風土



3

1107

放^{ほう}

鷹^{よう}

会^え

神
蔵

器

大空の玉のごとくに鷹放つ
太陽をつかむ放鷹地をすつて
若鷹の羽風を幣のごとく受く
鷹に鈴鳩の和毛の花と舞ふ
二日はや若鷹の目の中にをり

十二月二十五日

放鷹会 高貴な空をのこしけり
妻に挿す鈴張るごとき水仙花
降る雪やどこへもゆけぬ木の根っこ
降りしきる雪も炎となる被爆の火
日蓮の往生柱 初日さす
薙刀を車中に立てて春着の娘^こ
目出たくもならず七種粥柱

註「目出たくなる」は死ぬこと



竹間集

同人作品



冬の鵙

中谷 葉留

水音に傾ぎて枯るる太藪かな
遠くより来る冬帽の走り出す
町川の音なく逸る年の暮
冬の鴝二枚重ねて紙を割く
軋ませてきしみて寺の冬暈
綿虫や十善戒をこゑに読み
冬麗や子の縄電車動き出す

雪 蛩

小林 輝子

太陽に手繰られてぬし雪迎
杉木立抜け透きにけり雪蛩
草田男の大白鳥の田に汚れ
大雪や木魚の一打一短音
柚子の香の嬰受け止むるバスタオル
柚子風呂の湯気にひらきし生命線
やつこらと腰浮かしけり煤籠

長久手軍記

小野寺節子

城跡の何を語らふ落椿
とどまれば古城マツプに紅葉散る
山茶花散る「長久手軍記」今に知る
冬の蚊よ何考へて徘徊す
小春日や町となりたる古戦場
青々と冬菜の育つ戦跡
乱れ雲払ひ冬至の昼の月

年取るや

— 岩木 茂 —

浮かび来て海女白息を輝かす
降る雪を照らす年火となりにけり
北面の山が迫れる年の宿
藁蓑を被り年取る石仏
年取るや若狭の海を山を愛で
浦島の海より届く据り鯛
まだ誰も踏まざる雪の恵方道
一月や膝に雪置く石仏
風除の藁の中から初雀
荒縄で縛る漁船の注連飾り

大漁旗揚げて賑ふ浦の春
その中に喪中の船や初日影
読初に子等来る一滴文庫かな
定期船航く浦々の冬菜畑
牡蠣打の音の漏れ来る雪催
浜に出て汐木を拾ふ三日かな
雪踏んで鵜之瀬の渦に近づきぬ
松原の松濃くなりぬ吉書揚
山眠る北へ北へと連なりて
一族の墓水仙花が海辺まで

山河集

同人作品



神蔵
器選

大根百本洗ひし両手湯に浸す

生田恵美子

干し菜してその後の日数忘れをり
点滴台連れて院内クリスマス
鼻めがね子が真似てをり日向ぼこ
冬菜洗ふ風より水のあたたかく

保田英太郎

一徹に残すくれなる帰り花
冬めくやベストセラーになれぬ本
寒菊や我がこと一輪にて足れり
嫁の父のはや七回忌冬桜
妻帰宅大根二本抱へゐて

橋添やよひ

国引の神話の浦や懸大根 橋添やよひ
火山灰混じる黒き土壌や牡丹の芽
冬暖か八雲の机脚長き

やくもたつ出雲の旅のしぐれけり
大山の岩肌削る北の風

近藤幸三郎

江の島へ急ぐ一舟芋嵐
装束を折目に畳む師走かな
凧に吹き戻されて昼の月
鎌倉の風の七坂石路咲けり
いまだ無き臨床例や冬木の芽

水井千鶴子

冬蝶に大きな真昼ありにけり
一つ咲く「青い月」てふ冬薔薇
ぼる市に母の世の物吊しあり
数へ日の陽のあるうちに玻璃磨く
火と水に仕へて暮るる師走かな

◇特別作品◇

去年今年

中村 洋子

極めたる襲の彩の冬紅葉
金堂へ一直線に寒すずめ
三井寺に一つ鐘つく冬うらら
大寺の四方八方枯れに急く
掌に囲ふうす瑠璃色の雪ほたる
冬の雨あふみ一面濡らしをり
ダリの絵の時計ゆがむや十二月
炎の中に茎立ち上がる牡丹焚

人参や三岸節子の赤い画布
オムレツを宙返りさせ冬至かな
明六つの鐘を遠くに初厨
折り鶴にいのち吹き込む二日かな
破魔矢受く日差しの中の八幡宮
ニユーイヤークンサートへの初電車
あらたまの初鼓の音澄みまさる
神歌のとうとうたたり淑気満つ
初能の「猩々」夫婦の中の舞
山眠る水底に在る神代杉
若冲の鶏図押絵の寒見舞
鳶群るる一月の空まはり出す

風土集



神蔵 器選

一の字のふくらみ鵲渡り来る 秋田 工藤ミネ子

バリアフリー雪百日のはじまりぬ
捨て桶の朝日を弾く初氷

頂へ径くつきりと根雪くる
賀状書く刻の隙間をつなぎつつ

冬の鵲塾の教師の声かすれ 横浜 保田英太郎

小春日や机上に眼鏡置きしまま
妻あれば嫌応なしの根深汁

小刻みに続く飛石花八つ手
消えし妻すぐ現はれる冬の夕

父の忌を明日に大綿来てゐたり 三鷹 布施まさ子

深大寺窯絵皿に落葉降りやまず
窯出しの壺に色置く冬の鵲

鎌倉

冬すみれ「信子」の墓を探し当て

掌を置かる如くに冬日癒えて坐す 東京 柴田久子

風邪の子の枕迎まるぶへツドホン
漱石の墓の初雪炎立て

寒柝や浅き眠りの犬の耳
冬山へスケツチの指立てて見る

生ま食ひの試食こんにやく一茶の忌 東京 林 裕子

香合の中に仏や十二月
ポインセチア叱られたくて酔ふことも

葉牡丹に潤ふまでの月日かな
雪塩を選みて七種粥仕上ぐ

したしかり数へ日に逢ふ童子仏 川崎 清水 慎子

立山の髷にひびかせ鯰起し
コンサート果つ冬ざれの武道館

待ち合はす表参道冬紅葉
夕映を入れて百畳冬障子